



田嶋 康利

「いま、『協同』が創る2014全国集会 in 九州・沖縄」(以下、協同集会)の開催が2カ月後に迫ってきた。「協同の力で働く喜び、生きる喜びを！～集まらんですか、語らんですか。平和尊び、生命輝く未来へ～」をテーマに、11月22～23日に九州・福岡で開催する。昨年10月より日本労協連が実行委員会結成を呼びかけ、毎月実行委員会を開催する中で、当地の農協や生協などの協同組合、NPO団体、労働者自主福祉団体、医療・福祉関係者、研究者、学生、自治体職員、マスコミ等々幅広い方々の参加を得て、集会の成功に向けた企画立案など熱を帯びた会議になっている。協同集会は文字通り、「協同」をキーワードに所属や地域を越えてさまざまな人々が交流・参加し、より良い市民社会の創造に向けた実践を議論し合う機会として創られる。

特に、16回目を数える今回の協同集会は、日韓市民の友好連帯を深める集会として位置づけており、4月に訪韓して以降、韓国地域自活センター協会や韓国労働者協同組合連合会等との交流を重ねてきた。韓国の両組織とも、6月ソウルでの懇談、日本労協連総会へのご臨席、7月ソウル市での映画「ワーカーズ」上映、8月福岡での協同集会実行委員会共同代表との懇談、交流を進め、協同集会には韓国より100名を超える方々の来日が予定されている(また、協同集会直前の11月17～19日にソウルで開催される「グローバル社会的経済フォーラム」

において、セッションへの運営参加と共に日本労協連からも多数の参加を予定している)。

初日全体会では、韓国地域自活センター協会と日本労協連との20数年にわたる交流を踏まえて、「包括的協同協定」の締結調印式も予定しており、韓国代表よりご挨拶をいただく。また、翌日には、「失業・貧困の社会的危機に対し、当事者市民が仕事をおこし地域をつくる社会的経済とは～日韓社会的経済プラットフォームづくりへ向けて～」と題した社会的経済の推進をテーマにした分科会も予定しており、ソウル市社会的経済課、韓国地域自活センター協会、韓国労働者協同組合連合会の方々を報告者に迎える予定である。

現在、協同集会へのソウル市長の参加を要請しており、実現されれば、11月にソウル市で開催される「グローバル社会的経済フォーラム」の成果を踏まえて、初日全体会での友好連帯のご挨拶、同分科会でのご報告をいただくことになる。

協同集会の初日全体会は、専修大学玉名高校によるマーチングバンドをオープニングに、姜尚中さん(聖学院大学学長・東京大学名誉教授)の記念講演「歴史的危機の時代に、共に生きる、共に働く社会を創る」、パネルディスカッション「農と自然、つながる命ー未来の仕事創造するー」(報告者：山下惣一氏(農民作家)、宇根豊(農と自然の研究所)、ワーカーズコープ国分地

域福祉事業所ほのぼの+仕事ができる子どもたち)、特別企画として認定NPO法人抱樸による「生笑(いきわら)一座」による演劇、さらに石巻市長より東北復興の現状と課題についてお話いただく予定である。

2日目分科会は、21の分科会テーマ毎に実行委員会を開催し、企画作りを進めている。現代日本社会が抱える課題や問題を市民や働く者がその解決に向け各地で奮闘、実践している取組みを報告・交流する機会としたい。

集会翌年の2015年は、社会的困難にある人びとの自立を促進する生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て3法、介護保険制度の改定などが全国的に実施されるなど、社会の大きな転機を迎える年になる。これらの制度が働く者や市民にとって、真により良いものとなるためにも、「協同を希望に、協同を未来へつなげ」、新しい社会を創造する転機となる集会にしていきたい。また、豊かな自然や文化に恵まれた九州・沖縄の地で、人や地域の可能性を掘り起して、そして東アジアに近い九州・沖縄として韓国の諸団体とも協同、連帯し合い、協同の限りない力を余すことなく発信していく。

集会は3千人規模の大集会を考えており、ぜひ協同集会の開催主旨をご理解いただき、会員、研究者の皆さんに、是非ともご参加いただければと思う。

以下、分科会テーマ(9月21日現在)。

①高齢者が地域で活躍するコミュニティケアの創造へ～介護保険制度改定を焦

点に～

- ②生活困窮者支援制度を焦点に一孤立と分断、排除を超えて、共に生きる、共に働く地域を創る
- ③若者の仕事と生き方を考える～映画ワークス鑑賞とあわせて(学生分科会)
- ④成長なき「人口減少社会」に、持続可能で豊かな地域社会をどう創る
- ⑤東日本大震災からの復興を人間復興のコミュニティへ
- ⑥あなたの意志あるお金でくらしと社会を変える
- ⑦どうなるTPP！私たちの食・農・暮らし～危ない自由貿易協定の罠～
- ⑧失業・貧困の社会的危機に対し、当事者市民が仕事をおこし地域をつくる社会的経済とは～日韓社会的経済プラットフォームづくりへ向けて～
- ⑨沖縄・水俣・福島をつなぐ、国策に翻弄されない市民主体の地域社会を創る
- ⑩障がいのある人々が共に創り出す共生社会
- ⑪労働の破壊を許さず人間らしい労働の創造へ～働く喜び、生きる喜びを地域から創る協同労働の可能性～
- ⑫菜の花・BDFの取り組みが地域の未来を創る～地域で自給・循環する自然エネルギーの拡大～
- ⑬平和な東アジアを市民連帯の力で創る
- ⑭遊休施設を活用した市民主体の新しいまちづくり・仕事起こし
- ⑮笑いが創る共生・協同の社会目指して
- ⑯子ども・若者の困難を超える地域づくり

～“生きる”をマモリ“生きる”をツタエル～

- ⑰ 人生80年時代の食と農と福祉
- ⑱ 子ども・若者が地域再生・まちづくりの主体に～生命あふれ、一人ひとりが輝く未来を～
- ⑲ 自然と里山を活かした地域づくり、人づくり(移動分科会：筑豊)
- ⑳ “死の海からの復活”洞海湾の軌跡を知ろう！(移動分科会：洞海湾)
- ㉑ 農を通して、自然と人間のつながりを見つめ直すーグローバル化時代の先を構想する(移動分科会：糸島)。

最後に、姜尚中さんからいただいたメッセージ「共に生きる、共に働く社会の創造を～協同集会 in 九州・沖縄への期待～」を紹介する。

「2011年3月11日に起きた福島原発事故は、国と民間のもたれ合いの中で生み出された問題を浮き彫りにしました。事故の責任の所在は不明にされたまま、汚染水は収束できずに暴走しています。この問題が私たち投げかけたものは、大量生産、大量

廃棄、大量消費型の社会の根底的な危機であり、成長経済に立脚した国家の破綻的危機を示しているのではないのでしょうか。

私たちは、ワーク(地域社会と密接につながった誇りを内容にする仕事)に立脚し、地域に根ざしたさまざまな取り組みを通じて、変えることができるものは変える有気と、それを見極める知恵をもたなくてはなりません。

お互いを尊重し、性別を超え、社会的弱者や外国人にも可能な限り開かれた草の根の活動が広がれば、地域や社会は良くなっていくでしょう。地域社会の過疎化の中で、こぼれていく人をどうやって救い上げていくのか、地域にセーフティネットが必要です。

私の講演の演題にもありますが、戦争への危機と排外主義が広がる歴史的危機の時代に、九州福岡の地で開催される「いま、『協同』が創る2014全国集会 in 九州・沖縄」が、共に生きる、共に働く社会を市民みんなの手で創り出す大きな契機になればと思います」。